

技術士だより

(社) 日本技術士会九州支部夏季号<第72号>(平成19年7月15日発行)

巻頭言

照 顧 脚 下

(社)日本技術士会 理事・九州支部副支部長
是永 逸生(機械、総合技術監理・北九州)



技術士法が昭和32年に制定されて、今年で50年目を迎え、(社)日本技術士会では、これを記念して種々の行事が開催されている。九州支部でも、昨年末から3回に亘ってCPD研修会等と組み合わせて、趣旨説明やシンポジウムを実施してきた。

特に四月末に実施したシンポジウムは九州の産官学トップの先生方と技術士会とでパネルディスカッションを実施したが、社会から見た技術士集団を適切な目で批評されたと思う。その主なものは、技術士のうぬぼれ、社会に対する積極性の不足などであり、目から鱗が落ちる状態であった。

我々は技術士の資格を職業資格にしたい、守秘義務や継続研鑽で努力しているのにそれを認めてもらえない等、50年の歴史が認められていない不満の情を持っていたが、実際に学校や公民館に出かけて、子供や社会の方々に技術の話や技術士の役目や活動の内容を説明しているかとの指摘があり、深く反省させられた次第である。

最近の動きは、「技術士ビジョン21」「技術士プロフェッション宣言」に取り纏められているように、技術士法改正に伴う種々の制度が21世紀の技術士としての整理を進めている。

九州支部の動きとして具体的には、次の項目が挙げられる。

- (1) JABEE 制度の導入との関連で修習技術者支援制度の導入
- (2) 技術士試験制度の変更による若年層の増加を踏まえた第7部会(青年部会)の創設
- (3) 技術士の継続研鑽の責務に基づく九州支部第2ステップCPD体制の導入
- (4) 九州技術士センターを廃止して九州支部へ一本化

これらの大きな改革は、新年号の巻頭言で光岡支部長が記載されているように、平成12年の技術士法改正により、従来の「功なり名を遂げた」技術者に与えられた勲章からプロフェッショナルエンジニアとして、働く技術士へと変ったことに由来すると思う。

この考えに基づいて技術士会を振り返ってみると、大部分が企業内技術士として、高い技術力を持って働いており、技術士会に入会する必要がある状況であることを正しく理解できると思う。

会員拡大活動を進めてきたが、果たして当事者の意思・都合を理解した上での活動であったか疑問である。企業内技術士として技術士である資格を大きく評価できる形を作る方が大切と考える。そして企業内で多発している不祥事に対しても基本的な責務として、公正な指摘が出来る形にすべきである。内部告発ではなく率先して警告を発する「ホイッスルブロー」という感覚に変えることである。技術士がいたらあんな事故は起きなかったのではないか、という声を聞くが、それを本物にすることが急務である。

最近、技術管理者に対する「名義借り」の問題も指摘された。何れも、技術士は厳格な職業倫理を持って社会に貢献することを強調する良い機会であると考ええる。

禅語に『照顧脚下』や『看脚下』という言葉があるが、我々が新しい問題に対して種々の施策を講じる上での試行錯誤や迷いに苦勞する際には、先ず自分の歩んできた足元を振り返ってしっかり反省し、考え方の基本をしっかりさせることが最も大切なことだと考える。

技術士若年化の動きに対応して、修習技術者の支援や第7部会(青年部会)のしくみを発案したが、その進め方が強引であった等の声があると聞く。一方、業務開発の審査や海外業務等の技術士業務に対して、70歳定年の動きがある。若年化や世代交代の動きに対して真剣に真正面から取り組む必要がある。

企業内技術士が今後とも大多数を占めることは間違いないので、彼らが「産業界の中核者」として、活躍できるように、企業内技術士に活躍の場を開放することが肝要である。すなわち、技術士の各人がプロフェッションとしての自覚と勇気を持ち、同時に老壮青の技術士が一致協力して社会に発信していくことで、産業界や社会が「あるべき技術士の姿」を認知していくことになると思う。

技術士活動の活性化

鹿児島地区代表幹事 後藤 祐一郎
(建設、総合技術監理・鹿児島)



私たち技術士は、科学技術に関する高等の専門的応用能力を必要とする事項について、計画、研究、設計、分析、試験、評価又はこれらに関する指導の業務を行っています。また、私たちが所属する日本技術士会は「技術士の使命及び職務にかんがみ、技術士業務の進歩、改善及び技術士品位の保持、向上をはかり、もって、わが国科学技術の向上、わが国産業の発達及び海外との技術協力の推進に寄与する」ことを目的とし、技術士法に基づき文部科学大臣により指定された我が国唯一の公益法人です。しかしながら、技術士会への加入率は僅か20％程度（約11,000名）に止まっている現状です。

日本技術士会は本部と支部の2組織から構成されています。各支部のテリトリーが広すぎるため、支部の恩恵を受けることが難しい地方の技術士は、更に補完的な組織として、有志による都道府県単位の技術士会を立ち上げ、地域に密着した活動を行っているのが現状です。この都道府県単位の技術士会は、本部・支部技術士会の活動を支援・補完しているにも関わらず任意団体という位置付けです。この任意団体という位置付けが色々な面で活動を制限しています。地域での積極的な活動を行う為には、別途にNPO法人を立ち上げざるを得ない状況に陥っています。地方に居住していますと、支部活動に対しては距離的・経済的なハンディがあり、積極的に参加しにくい状況にあります。そこで、地方の技術士との連携を強化するためにも、本部、支部、都道府県単位の組織の3段階の法人組織に改組することを、ご検討頂きますよう提言致します。

平成16年6月に策定された「技術士ビジョン21」においても、技術士会の役割と課題の項で「日本技術士会の地方組織のあり方を再検討する。地域住民や会員へのサービスは、できるだけ支部がその機能を果たすこととし、また、支部と県の技術士会との関係も視野に入れた技術士会全体としての活性化を

模索する。」と唱われています。これらの課題を具現化するため、これまで「会員拡大・技術士活性化推進特別委員会」等の機関で種々検討がなされ、平成19年度事業計画でも「実現可能な施策に取り組む。」こととされるなど、大変なご苦勞をして頂いていることはよく承知致しており、敬意を表するところです。是非、地方居住者も参加しやすい組織への再編をご検討頂きたいと思います。

次に総合技術監理部門のあり方について提言致します。

総合技術監理部門は、部門制定当時20番目の技術部門として、「企業などの組織における技術業務全般を見渡し、安全性や経済性などに関する総合的な判断に基づいた監理を行うことが可能な技術者を育成、認定する。」という目的で立ち上げられたと記憶しています。平成19年度の技術士第二次試験案内をみても、総合技術監理部門と総合技術監理部門以外の技術部門では、受験資格や筆記試験の必須科目の内容、試験時間も異なっています。このように総合技術監理部門と総合技術監理部門以外の技術部門では、同じ技術士でも制定された目的や要求される能力が違うものと思います。

ところが、一例を挙げますと、発注機関において、受託機関の総合技術監理部門の技術士を他の技術部門の技術士や他の資格（例えばRCCM）等と同列で取り扱うケースが目立っています。そのことが一概に悪いことだとは言えませんが、折角、新たに立ち上げた総合技術監理という資格が適切に評価されていない様な気がします。総合技術監理で問われる資質・能力を最大限活用できる場が与えられる様な場面が出てくることを、日本技術士会も技術士個人もしていくことが大事だと思っています。幸いなことに、日本技術士会でも「総合技術監理部門の今後のあり方」について検討されることとなっていますので、今後の検討に期待して筆を置きます。

第二期目の理事就任の挨拶

(株)日本技術士会 理事・九州支部副支部長

是永 逸生（機械、総合技術監理・北九州）

皆様方のご支援を頂きまして、5月31日に締め切られました投票において、高得票で理事に当選させていただきました。心から感謝申し上げます。

私自身としては任務の大きさに身の引き締まる思いです。

第二期目の理事として、初心に戻って、誠心誠意努めて参りたいと思っています。どうぞよろしくご指導賜りますようお願い申し上げます。

今日まで九州支部代表の理事として、「支部の役割強化」「技術士若年化に対する対応」「CPD研鑽体制の改正」に取り組んで参りました。具体的には、全国大会の行事を通して、各支部や部会との信頼関係やパイプを太くしました。特に、若年化に対しては「産業界の中核者」としての位置付けを明確にして、第七部会（青年技術士部会）と修習技術者支援体制を作りました。また、「九州支部第二ステップCPD」体制を定着させ、CPDの機会均等とレベル維持を図りました。

今後、第二期目の理事として、立候補のご挨拶で下記の課題に取り組むこととお約束しました。

- (1) 現在、九州支部は支部・センター一本化に向けて、組織改革中であり、重要法案が進行中である。これの対応として、九州支部と本部・各支部・部会とのパイプ役に徹し、九州支部の経営基盤の立て直し、組織・人心の協力体制を構築する。
- (2) (株)日本技術士会全体の課題である「技術士組織の拡大や社会の認知度向上、公益法人対応など」には、企業内技術士との連携や技術士倫理の重視が不可欠である。これらの課題に対しては、昨年取りまとめた「プロフェッション宣言」を中心に、長期的なビジョンを織り込んで、新しい時代に適合した(株)日本技術士会の構築に先導的な役割を果たす。

いずれも、大きな課題であり、解決するためには、その本質を見極める必要があると考えます。

九州支部・センター一本化に対しては、種々の境遇、たとえば所属する団体の中での会費の支援まで

含めて、年会費の問題か、あるいは他の制約や他の情報提供や機会提供での不満足があるのではないかな等を十分に見極める必要があると考えます。

巻頭言にも記しましたが、会員の種類を一元化せずに、学生や企業内技術士、一般の独立技術士等に分けてそれぞれ妥当な年会費にすることもよい考えだと思います。これらのアイデアも含めて柔軟な発想で解決する必要があります。具体的には企業内技術士がそのままの形で活躍できるような体制・組織の構築です。

技術士の若年化や世代交代の動きに対しても、第七部会が主導的な認識を持って真剣に真正面から取り組む必要があります。九州支部全体として支援して行きたいと考えます。

また、技術士倫理に関しても、企業内技術士の存在が重要です。企業内で多発している不祥事に対して、技術士の基本的な責務として「公正な指摘をする」ホイッスルブローを大きな声で社会に発信することが大切と考えます。

企業内技術士や企業内技術士組織との連携を強める動きがありますが、「技術士組織の拡大や社会の認知度向上、公益法人対応など」(株)日本技術士会全体の課題に対しては、この切り口での対応が重要と考えます。今後、関係者と連携して進めて参りたいと考えます。

このように、われわれ技術士および技術士会の置かれた立場は、官や学・産業界・技術士内部から見ても非常に重要な時期にきています。

先日、技術士法施行50周年記念行事で実施したパネルディスカッションで、技術士は学校や公民館など社会に対する働きかけが不足していると指摘されました。

目から鱗が落ちる感覚で反省しました。改めて足をよく見つめ、足跡を振り返り、多くの方々との協力体制で、より良い方向に進むように頑張りたいと思います。

皆様のご支援・ご協力をお願いいたします。

支部長を拝命して



九州支部長 光岡 毅
(建設・福岡)

平成19年5月26日の九州支部総会において支部長に選任されました。

これまでの2年間には、皆様方のご支援により何とか無事に務めさせて頂きお礼申し上げます。

省みますと、その時の重要課題は、技術士会福岡全国大会でした、そのお膳立ては出来上がっていましたが、まだいくつかの課題が残されておりました。しかし、皆様のご協力でこれら課題がすべてクリアーされ、600人以上の参加者を集め無事盛大に開催され大変好評でした。

また、それ以外の課題として、技術士センターの支部への一体化、有限会社九州技術支援センターの解散等多くのことがありました。

今期は特段大きな行事の計画はありませんがこのような時期にこそ足元を固めなければなりません。

元センター会員については、当面支部協賛会員として身分を受けましたが、まだそれらの方々への詳細な処遇についての議論もしていません。これからです。これが一番大きいな取り組みになると思います。

総会での議論になりました支部の活動を積極的に社会に展開するために、若い方々が主体になって進めて行くという具体策もこれからの議論です。

プロフェッショナルエンジニアとして行動している技術士は、これまでのコンサルティングエンジニアと違って産業の第一線で活躍する若い技術士です。また、このように技術士の活動方向も変わって来ます。技術士会はこのような若い技術士をサポートしていかなければなりません、そこで、少なくとも企画を出す委員は若い人、それをたとえば知識や人脈で支援するのは高齢者の技術士の仕事であると思いますが、混乱させてはなりません、このため、支部

の執行する委員会の委員は50台もしくは60台の若い人に限定しようと思う。

支部の活動を積極的に社会に展開する具体策として会員増強を行うことです。わが国の技術者数250万人に対し技術士数は6万人に過ぎません。技術士の数が不足で、十分に企業の現場に行き渡ってはいません。工場などの技術者の中でかなり多くの割合で技術士が活躍することがきわめて重要であります。そのためには、技術者が多く技術士の資格を取ってもらい技術士会に入会していただくことが社会にとって技術士の意義が理解され、企業にとって必要な人材という社会認識が確立すると思います。支部は、出来るだけ支援してまいります。

九州支部の役員は、支部会員のため、ひいては社会のために尽くすためにありますが、その職が名誉であるとか、また、その職権で何らかの利益が得られるというものではありません、えらいという態度を発散しているように見受けられるとすれば、反省しなければならないと思います。また、コンプライアンスと倫理観をもって物事を処理していかなければなりません、本部の諸規定、支部の諸規定については理解して業務を推進しなければなりません。

役員は、ボランティア活動で、かなり自分の生活を犠牲にしなければならない場合もあります。したがって、一人の人に業務を押し付け、逆に仕事を一人で抱え込んでしまうということでは会員に対し十分なサービスは行き届きません。これからは、多数の皆様のご参加を得て支部運営を行ってまいりたいと思います。前回からの言葉「万機公論に決すべき。」と言う精神で進めてまいりたいと思いますので一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

中央・本部情勢

政策委員会等 (概要) 報告

政策委員会委員 小出 剛
(農業・福岡)



I. 主な経過

本委員会では、先の『技術士ビジョン21』に基づいて決定した『組織・制度改革への行動指針』を受け、①基本事業検討 ②代議員制度検討 ③地域組織検討 ④定款等諸規定検討の四つの小委員会を立ち上げ、これまで、委員会の前後に小委員会（2時間）を毎回開催し、その結果を本委員会（約4時間）に持込み、全員で審議しました。

なお、「技術士ビジョン21」の作成後に、公益法人制度改革が具体化したため、これまでの審議事項の総合的見直しを図る必要も生じて来ました。

今回は最終の第23回政策委員会（平成19年5月24日）で、取り纏めた「政策委員会活動報告書」の概要を紹介します。なお、詳細は後日の技術士会 HP や印刷物で表現されますので、本誌では紙面の都合上、主要項目程度に留めます。

II. 委員会の概要（5月24日）

1. 委員長挨拶

1) 今期最終案の取り纏め

今期2年間で審議し、多数の事項が理事会議決となったが、最終の理事会には次の2項目を付議し議決され、3項目を報告事項として、今期の区切りをつけた。

(1) 理事会付議事項（5/10理事会で議決）

- ①シンボルマーク及びロゴ
- ②委員会に関する規則の変更

(2) 理事会報告事項（5/10理事会に報告）

- ①基本事業について
- ②代議員制度について
- ③都府県単位の地域組織について

III. 政策委員会 活動報告書（概要）

この『活動報告書』は、2005、06年度の委員会活動内容の記述だけでなく、申し送り事項を含め、次

期委員会が速やかに継続した検討に入れるように配慮・編集した。

I. 全体報告

1. 1 活動概要全般

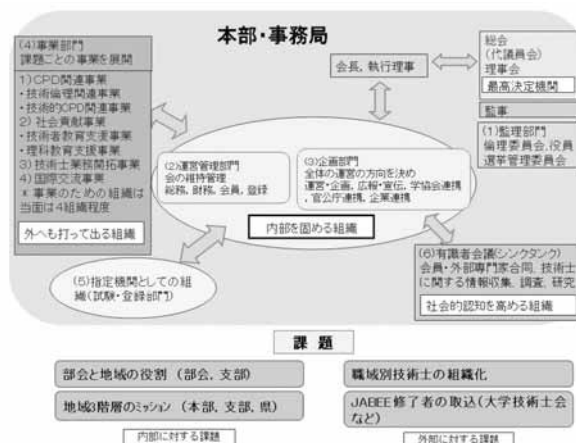
政策委員会は、組織・制度改革への行動指針の中の前期委員会から継続した事項の詳細検討ならびにその他会の基本運営に関わる事項を担当することとし、次の4小委員会を編成して推進した。

①基本事業等検討小委員会・②代議員制度検討小委員会・③地域組織検討小委員会・④定款等諸規程検討小委員会

2006年6月に「公益法人制度改革の関連法」が成立したことが、その後の検討に少なからず影響したことは否めない。日本技術士会は「公益法人をめざす」ことを機関決定し、そのスタディに取り掛かった。2007年1月に「技術士プロフェッション宣言」発表、5月には新しい「シンボルマーク」を決定した。

定款を除く諸規程に関して本会の実態に配慮しながらも諸規程間の整合性を図りかつ方向性を盛り込み、順次理事会で議決されて、会の現状に対応した整備を完了した。会の事業が内外に見える事が肝要との視点で、「基本的な事業について」見直し、「組織の方向性について」は本部委員会組織を中心に再構築する組織の方向について検討した。

魅力ある会の中核となる事業を謳い上げ、速やかにこれを実行に移すために、本部・事務局組織を「内部を固める組織」と「外へも打って出る組織」に再編成する必要性を強調した。下図はその構成(案)。



代議員制度は、代議員会を新設して総会と機能を分担するもので、「代議員制度の概要」としてまとめた。代議員会のあり方、代議員の選出方法を含め、公益法人制度改革の詳細規定化の進捗と合わせて、代議員制度の導入の可否を判断することとし、検討結果を纏め2007年5月の理事会に報告した。

都府県レベルでの地域組織（特に関東甲信地域の県単位組織）が自立的に活動を展開する姿が望まれている。県単位組織を適正に構造化し、会として一体となった組織化を図っていくのが基本的な方向である。これらの成果をまとめ2007年5月の理事会に報告した。

「定款について」は、基本的な事業の見直しによって、定款を見直す必要があることから、将来の定款のイメージをまとめた。さらに、財政に関する問題が大きな課題であるとの認識を持ち、「財務基盤について」新たな提案をまとめた。これらの結果をまとめ2007年5月の理事会に『本会の今後の事業の方向性について（検討報告書）』として報告した。

Ⅱ. 基本事業検討小委員会報告

2. 1 活動概要

次の7項目に関する立案・検討・取り纏めを行った。

①公益法人制度改革における本会の目的及び基本となる事業内容の検討、再構築、②青年技術士交流実行委員会の運営・連携、③本部事務局組織改革、④常設委員会等委員会組織の見直し、⑤プロフェッション宣言の策定、⑥シンボルマークの改定、⑦防災特別委員会の実行委員会化。

Ⅲ. 代議員制度検討小委員会報告

3. 1 活動概要

以下の2項目に区分し、総合的に検討をすすめた。

- (1) 役員選挙制度に関わる検討
- (2) 代議員制導入に関わる検討

Ⅳ. 地域組織検討小委員会報告

4. 1 活動概要

日本技術士会の県単位の組織は、①行政における技術的問題への関与、②技術者への継続研鑽など地域に根ざした活動を積極的に展開している。小委員会では、この県単位組織をより活かして日本技術士会の課題を早期に解決すべきであるとの認識に立ち、本部、支部、および県単位組織は如何にあるべきか

を検討した。手段として、①ヒアリングとアンケートによる活動実態の把握、②内容の討議とした。また、支部の有無、会員規模、活性度、会員意識などに差があるため、支部の無い関東甲信地域と支部のある地域とを分けて検討を行った。県単位組織の名称、会員規模別の扱い、財源問題等も課題とした。

4. 2 活動成果

以下の報告書をまとめ、平成19年5月の理事会に報告した。

(1) 地域組織のあり方について

県単位組織設置の目的、基本的なあり方、3層構造の分担機能と実施事業等について課題整理した。

(2) 関東甲信地域における「都県単位地域組織設置基準（案）」

県単位組織を設置する上での問題点を纏めた。

(3) 部会及び支部等地域組織の組織的位置づけについて

V. 定款等諸規程検討小委員会報告

5. 1 活動概要

主要課題は、①基本事業見直し及び公益法人改革に対応した定款、細則等諸規程の見直し、②諸規程間の体系及び整合等見直し、③委員会に関する規程の策定等現行規定に関わる課題の検討、④顧問・参与に関する規程の検討であった。その他要請あった必要な諸規程検討も加え、次に示す成果を得た（項目のみ・内容省略）。

- (1) 実行委員会委員の任期に関わる規則変更
- (2) 外部委員会委員等委嘱に関わる規則制定
- (3) 特別及び調査委員会に関わる細則の変更
- (4) 委員会に関わる規定の変更及び新規則の制定
- (5) 顧問および参与の委嘱に関わる規則について
- (6) 会員推薦状規則
- (7) 技術士会の主要会議に関する規則について
- (8) 防災会議設置・運営規則
- (9) 業務委員会提案規定の確認
- (10) 事業委員会提案規定の確認

Ⅳ. その他の事項（5月25日・午前）

1) JABEE 事務局（福岡専務理事）を訪問

JABEE 新人審査員研修の実施に関する状況聴取。

2) 日本工学教育協会（椿原専務理事）を訪問

JABEE 支援の形で、新人審査員研修を九州で再度実施の企画について聴取。

「九州支部総会及び技術士センター 第42回定時総会」の開催報告

九州支部 総務委員長 中村 勲
(建設、総合技術監理・福岡)



平成19年5月26日(土)に、平成19年度九州支部並びに九州技術士センターの第42回定時総会を福岡商工会議所で開催致しました。

当日の会員出席状況は、支部会員等1256名のうち出席会員69名、委任状提出638名、合計707名。これら会員等の御出席を得て、支部規則に定める総会成立の必要定員数を上回り、定時総会は無事に成立致しました。

最初に光岡支部長からは「社会に認識された技術士への実現及び主要な支部活動」を主旨とした挨拶があり、小出センター会長からは「九州支部と技術士センターとの統合の必要性とその課題」を主旨とした挨拶がありました。今回総会の討議議題は、平成18年度事業活動報告と平成19年度事業計画の主旨(骨格)を定めるものです。

議題審議に入り、第1号議案「18年度会務及び事業報告」(会務報告・地区事業報告・委員会事業報告・部会事業報告)、第2号議案「18年度収支決算及び監査報告」(九州支部及び技術士センターの財産目録・一般会計・特別会計並びに監査報告書)、第

3号議案「九州技術士センターの廃止について」、第4号議案「支部19年度会務及び事業計画(案)」、第5号議案「支部・19年度事業予算(案)」、第6号議案「九州支部規約改正について」、について議題毎に審議し、全議題が白熱した議論を踏まえ拍手多数で承認されました。また、第7号議案「役員改選について」は、光岡毅支部長が引き続き次期の九州支部・支部長に指名されました。

総会の課題としては、平成19年度支部予算(案)が事業計画(案)に対して予算額が非常に厳しい事。又、九州技術士センターを廃止する事に伴い、センター会員は日本技術士会員に異動して頂き、早急に一体化を図る必要があります。

今後の予定は、6月16日(土)に「九州支部役員会」(福岡商工会議所)を開催し、新執行部によって総会で骨格が定まった「支部・19年度会務及び事業計画(案)」及び「支部・19年度事業予算(案)」について議論を深め、この骨格に肉付けを図り、平成19年度の事業活動方針を決定する事です。

平成19年度九州支部第1回CPD概要報告

CPD委員 中村 勲 (建設、総合技術監理・福岡)

九州支部主催の平成19年度第1回CPDが平成19年4月28日(土)、102名の参加者を得て九州大学医学部100年講堂で開催された。当日は光岡毅支部長の主催者挨拶に続いて講演2題と「技術士法制定50周年を迎えて」と題してパネルディスカッションが行われた。以下、パネルディスカッションを除いてその概要を報告する。

JR九州総合企画本部 経営企画部 担当部長 宮崎正純氏に「2011年、博多駅はどう変わる？」のテーマで講演をお願いした。民営化20年目を迎えた、

JR九州最大の課題である「九州新幹線」の整備・運行状況及び「新・博多駅」の整備状況が説明された。

- ① 九州新幹線の現状と全線開業への取り組み。九州新幹線鹿児島ルート第一期開業は、鹿児島県内に開業後1年間で約166億円の経済効果をもたらし、更に約3年間で新幹線利用者(新八代駅～鹿児島中央駅)が1000万人を突破した。同区間の利用者は新幹線開通前に比して約2.5倍に達している。
- ② 博多駅周辺のまちづくり。博多駅周辺は、天神

周辺に比較すると、オフィス機能に特化した街であり、交通相互のアクセス機能がスムーズでなく、公園・緑地等のオープンスペースも少なく、回遊性にも乏しい。従って、博多駅地区よりキャナルシティを経由し天神地区との回遊性の強化を図り、賑わいの連続したまちづくりが、福岡市の更なる発展のためにも必要である。

- ③ 新・博多駅ビル開発の必要性。平成23年（2011年）春に九州新幹線鹿児島ルート全線開通（予定）。これを踏まえ21世紀の福岡市、九州の顔として、利用し易い交通拠点、賑わいが連続する街の新しい拠点として、デパート等複合商業施設を併設した新・博多駅（地下3F、地上10F）を開業する。九州大学大学院 歯学研究院教授 石川邦夫氏に「第三世代骨補填材へのアプローチ」のテーマで講演をお願いした。超高齢社会の到来に伴い、骨疾患が急増している。骨欠損部の再建術式において、第

一選択は自家骨移植であるが、いろいろと弊害も多い。従って生体骨に学び、より自家骨に近い人工骨補填材の研究・開発が望まれている。

- ① 超高齢社会の到来。人間は健康の質（QOL）が大事であるが、骨折（骨疾患）を原因とした寝たきり生活より、認知症が発生し、その結果として長期療養、QOLの低下、家族の介護負担増及び医療費増大の弊害を招いている。
- ② 人工骨補填材の研究・開発。第一世代骨補填材としてアルミナ、第二世代骨補填材として生体活性ガラス、ハイドロキシアパタイト、第三世代の骨補填材として炭酸アパタイトが開発された。
- ③ 炭酸アパタイトによる人工骨補填材。炭酸アパタイトは生体骨と同様に骨に置換される理想的な骨置換材である事が判明した。

なお、パネルディスカッションについては別途報告の予定である。

石井樋シンポジウム

～治水・利水の先達 成富兵庫茂安を語る～

三浦 哲彦

（建設、総合技術監理・佐賀）



平成19年4月22日（日）、標記のシンポジウムを主催 NPO 法人技術交流フォーラム、共催（社）日本技術士会九州支部で開催した。場所は、佐賀大学理工学部大講義室であった。当日の参加者は約170名であった。地元の佐賀県内からの参加者が多かったが、長崎県、福岡県、大分県など県外からも10数名の参加者が得られた。

嘉瀬川の中流にある石井樋は、成富兵庫茂安が築造した歴史的な分水施設である。およそ400年前に築造され、昭和35年に川上頭首工から取水されるまでの350年あまり、多布施川を通じて佐賀を潤してきた。その後石井樋は土砂で埋まったり一部は洪水で流されたりして地域からは忘れ去られていた。

平成5年度に皇太子ご成婚を記念した歴史的水辺整備事業（全国で9箇所）の一つとして石井樋地区が選ばれ、国・県・市が一体となって整備が進められ、平成17年12月、約50年ぶりに新しい姿を現した。当シンポジウムは、成富兵庫茂安を源流とする佐賀の治水・利水技術と、石井樋の将来について学識者や地域活動家に語ってもらい、流域の人々の治水・

利水事業に対する理解を深めることを目的とした。

「成富兵庫の治水・利水技術」と題する第一部座談会では、陣内孝雄氏（工学博士、全国治水期成同盟会連合会会長）および福岡博氏（郷土史家、佐野常民記念館館長）のお二人を迎えて、荒牧軍治氏（佐賀大学教授）の司会により、江戸時代の治水・利水の特徴と今日的意義について語っていただいた。

第二部パネルディスカッションは「石井樋の将来を語る」と題して、各界から4名のパネリストを迎えた。まず石井樋復興事業にかかわった吉村伸一氏（吉村伸一流域計画室代表）から設計のコンセプトについての説明がなされた。続いて金子信二氏（さが水ものがたり館館長）、三原ユキ江氏（NPO 法人活気会理事長）、宮津哲郎氏（JTБ九州佐賀支店長）にも加わっていただき、中平善伸氏（武雄河川事務所所長）の士会のもとで、石井樋の今後のあり方について意見が述べられた。

フロアからも石井樋の活用に対する意見が出された。参加者からの反応は良好で、満足の声が多く聞かれた。

部会報告

第二部会活動報告

現地研修会・講習会報告

第二部会長 佐竹 芳郎
(建設、総合技術監理・福岡)



現地研修会報告

1、はじめに

平成18年12月12日第二部会で現地研修会を開催したのでその結果を報告いたします。有明海沿岸道路「矢部川橋上部工工事」及び「八女伝統工芸館と八女伝統的町並み巡り」を34人の参加者を得て研修しました。

2、矢部川橋上部工工事

有明海沿岸道路は地域間の交流・連携を強化する地域高規格道路として大牟田から鹿島市まで計画された延長約55kmの無料の自動車専用道路です。現在は、大牟田IC～大川西IC(L=23.8km)を平成20年春の開通を目標に整備を進めています。

矢部川橋は、1級河川矢部川に架かる橋長517mの3径間連続PC斜張橋(1面吊り)で福岡県高田町～柳川市大和町にあります。

矢部川橋の特長は、中央支間長は261mと国内最大、有効幅員19.0mの広幅員橋で、平面曲線R=1150mの影響を改善するため傾斜主塔とストッパー構造を採用しています。また、高強度コンクリートの採用により主桁の軽量化及び免震支承の採用による地震力の低減により主塔基礎寸法を縮小したことによる建設コストの縮減を図っていることです。

工期を短縮化するために、施工ブロック長が8mで全幅施工という国内最大規模の超大型移動作業車(ワーゲン)を用いて、毎ブロック斜張橋の斜材を張り渡ししながら前進するという大変特色のある工事内容になっています。現地研修会の際は、主塔、斜材張り、主桁ブロックが同時に施工の真っ盛りでした。

また、矢部川橋に接続して日本初の「アーチカルバートを7つ連結して高架橋とする」工事も実施されていました。

工事説明を、(国土交通省九州地方整備局)福岡国道事務所有明海沿岸道路出張所の松尾さん、清水・川田JVの大場さん及び小林さんより丁寧に説明を



頂きました。

3、八女伝統工芸館と八女伝統的町並み巡り

八女の町興しになっている中心部にある、平成14年5月に国が選定した「八女福島重要伝統的建造物群保存地区」(約19.8ha)は、八女の歴史と文化が凝縮された町家群です。伝統的町家は白壁土蔵造りで、商家的な色彩と職人的色彩を併せ持った江戸～昭和初期のものが80棟ほど連なっています。歴史的景観を守るために、建物の建て方などについてルールを作り、市民と行政が力を合わせて町並みを保存しています。

今回は観光ボランティア2人の案内で2班に分かれて町家群を巡って研修しました。

界屋(旧木下家住宅)は酒造業を営んだ家で明治時代の贅を尽くした離れや庭園の造りが往時の姿をとどめていました。

八女伝統工芸館では、八女地方の伝統工芸品である石灯籠、仏壇、提灯などを展示していました。仏壇や和紙を作る行程の実演も見学しました。

八女民族資料館では、国指定重要無形民俗文化財の八女福島燈籠人形及び屋台も展示されており、八女に伝わる娯楽を知ることが出来ました。灯籠人形は250年以上の歴史があり伝統工芸の技を結集した舞台の上で、からくり人形が見事に演じます。秋分の日を含めて3日間、福島八幡宮にて公演されます。



講習会報告

1. はじめに

(社)九州建設弘済会主催の講習会に、日本技術士会九州支部(第2部会)が後援する形で相乗りさせて頂いて講習会を開催しました。

参加者は200人(うち技術士会員13人)

日時:平成19年2月20日(火) 13:00~16:10

場所:福岡建設会館 8階大ホール

講習項目:

「石井樋と成富兵庫茂安」

さが水ものがたり館 館長 金子信二

「九州における風景街道の取り組み」

(財)福岡アジア都市研究所 理事長

(九州大学名誉教授) 樗木 武

2. 石井樋と成富兵庫茂安

石井樋は、成富兵庫茂安が江戸時代初頭(1612~1623年)に嘉瀬川から多布施川を通して佐賀城下に水を引くために造った取水施設です。生活用水、灌漑用水、舟運に欠かせない施設でありました。多布施川に土砂が流れ込むのを抑えるために象の鼻、天狗の鼻を造り、水を逆流させ水勢を和らげ土砂を落とす工夫がされました。また、荒籠(アラコ)と呼ばれる水制、嘉瀬川をせきとめる大井手堰などの仕掛けが沢山あります。石井樋は平成5年度に皇太子御成婚事業に採択され、平成17年12月に復元完成しました。

成富兵庫茂安は佐賀の鍋島家に仕えた優れた武士でしたが、筑後川の堤防、灌漑用水路、堤、堰など多くの治水や利水施設を佐賀藩全域に造って人々の暮らしに役立てた偉業を成し遂げ、「水の神様」と呼ばれています。工事現場では苦労して

いる人を見かけると、自ら言葉をかけ、籠の中から菓子などを取り出して与えるという優しい人でありました。

3. 風景街道への取り組み

風景街道の始まりは、1927年からのドイツの休暇街道(観光街道)からです。

第2次世界大戦後は更に活発になりました。古城街道、ロマンティック街道など現在150ルート、長いものは延長が2000kmの街道もあります。

アメリカでは1989年に「シーニックバイウェイ(景色の良いわき道の意味)法」ができました。ねらいは、旅行者の増加策と地方の経済効果のためであります。景観性、歴史性、自然性、文化性、レクリエーション性、考古学性の6つの視点で道路及び沿道地域(コリドー)を指定しています。現在、国から州、地方自治体指定まで階層別に数百指定しています。

日本では、先駆的取り組みとしてシーニックバイウェイ北海道が始まります。支笏洞爺ニセコルート、大雪・富良野ルートなどがあり、ホームページも出来ています。

2005年に全国的に「日本風景街道」という名称にして、国土景観の向上、地域活性化、観光振興に寄与する、道を舞台に官民協働の多様な取り組みを始めました。

九州では「日南海岸きらめきライン」、「阿蘇くじゅう・やまなみ」など8つあがっています。官民による九州風景街道推進会議が近々立ち上がる予定です。個人・企業、道守会議などの地域諸団体、行政が協働して「風景街道」を整備、運営していくことになります。



第三部会研修会報告

マグネシウム合金の “持ち味”

第三部会長 和田 洋二
(金属・北九州)



「鼻」という言葉を聞いて読者は何を連想されますか。動物に関心のある方は、象のあの長い鼻？文学好きの方なら「鼻」(芥川龍之介)でしょうか。

私は最近、ロシアの作家ゴーゴリーの「鼻」(1836年)という小説を読みました。ある朝突然、朝食のパンの中からある人物の“鼻”を発見し、なぜかカミサンからののしられ(日頃の品行がよろしくないため)処分に四苦八苦する床屋の主人公と、一方、鼻を失って困惑し、自らの“鼻”を必死で探し回る落とし主の下級官吏を描いた作品です。最後は“鼻”が持ち主の定位置に戻り目出度しだが、果たして作者は何を伝えたかったのか？芥川の「鼻」は、「天然自然のままに」という芥川の熱望をモチーフとしている(臼井吉見氏)とのこと。こちらは、禅智内供(ぜんちないぐ)という高徳の僧が五・六寸もある自らの“鼻”を持て余すのだが、結局、世間体がどうあれ「個々の“持ち味”が代えがたい」という解釈で私も判然とする。

さて、第三部会では、2月24日、九州支部会議室において定例研修会を行い、金属部門 宮田守次氏から氏が参画しておられるナショナルプロジェクトに関する最新の研究動向をご講演いただいた。以下にその内容を紹介したい。

講演タイトル:「マグネシウム合金の強加工に関する結晶粒微細化研究調査(1)」
マグネシウム合金の特徴は、他の工業用金属材料

と比較して比強度、比耐力に優れ、また制振性、リサイクル性にも利点があることからノートパソコン、携帯電話、自動車、航空機など広く利用されつつある。ここで筆者の注釈を加えると、マグネシウム合金は加工性に難点があるとされ、現在も様々な解決への取り組みがなされている。また、「されつつ」というのは、自動車、航空機分野では、強度部材に用いた場合の人命の安全性確保という必須要件に対して、未だ衝突時非燃性などの克服すべき課題を抱えているという意味を含めたものである。しかし、課題が解決されこの分野での実用化／軽量化が進むとすれば、“マグネシウム合金の持ち味”が活かされ、低燃費化、リサイクルによる地球環境負荷低減の観点で非常に魅力的な材料であることは間違いない。

「日本が誇る世界トップレベルの技術開発状況」としては、①産総研九州センターによる“難燃性マグネシウム合金の開発”、熊大 河村教授“長周期積層構造型Mg合金(Mg-Zn-Y系)”、②九大 堀田教授などによるナノサイズ結晶粒微細化(ECAE法)などがあるとのこと。ECAE法は、元々ロシアで開発されたECAP法(特許切れ)と類似発想の技術で、結晶粒の超微細化による超塑性現象を利用し脆い金属材料に大きな延性を与え、成形性向上に役立てる意図がある。

また、マグネシウム加工産業の新ビジネスモデルとしては、福岡県に関心が深い“自動車生産拠点150万台構想”にかかる「北部九州自動車産業へのMg合金部品調達供給」などの産学研究プロジェクトが動いていることはご存知の通り。

今後の展望として、超塑性発現の研究は国際的広がりを示し、わが国でも九州大学大学院工学研究院

堀田教授を中心とするプロジェクトが進行中で、このプロジェクトに宮田氏が参画しているとのことだった。

訂正とお詫び

前号(71号)の巻頭言において、執筆者の九州支部副支部長 藤永正弘様の部門を、(建設、総合技術監理・佐賀)と記載しておりましたが、記載に間違いがあり、(建設・佐賀)に訂正し、お詫びいたします。

気軽に原稿をお送りください

「技術士だより」から、技術士の皆さんの気持ちが溢れて、生き活きとした息吹きがほとばしるようなしたいと思います。それで「声の広場」の原稿をお送り下さい。例えば、

① 何故技術士になったのか。

- ② 技術士になってわかったこと。
- ③ 技術士としてこんな仕事をしたい。
- ④ 今仕事の上で悩んでいること。

このほかいろいろあると思います。お気軽に書いて見てください。原稿は1600字程度。お送り先は支部事務局。メールでどうぞ。

地域だより

熊 本

熊本地域だより

広報委員 吉田 紘彬
(応用理学)



熊本市は、今年熊本城築城400年祭で賑わっています。既に「夜明け」「花絵巻」「春絵巻」の部を5月初旬までに終え、8月1日から始まる「夏絵巻」10月12日から始まる「秋絵巻」、12月31日から始まる「冬絵巻」「エピローグ未来へ」を残すだけになりました。熊本城内で多くの催し物が行われます。賑やかなお祭り会場から少し離れると、武者返しの石垣や楠の若葉が木陰を作り「荒城の月」や「古城」をハモリながら昔を偲ぶと日常の喧騒を忘れます。混雑する国道57号線その他、ミルクロード・熊本高森線や西原種育苗成牧場から久木野に抜ける道路などを利用して阿蘇中央火口丘へ向かうと、周辺の新緑に囲まれた黒い溶岩とピンク色のミヤマキリシマは明日の活力を生み出してくれるでしょう。時間を持

て余している方は、是非熊本にお越し下さい。そして熊本の地下水からなる水道水を飲んでみてください。おいしくて健康によいとの定説です。

技術士会の5月は総会の月、熊本県技術士会とNPO 熊本技術士の会は、4～11月の技術士試験支援講習会に着手し、11月以降に、具体的な日取りは未決ですが、土木の日参加・セミナー・産学官交流研究会を計画しています。また、総会の時なされた議論で、個人情報の保護が技術士会の沈滞を招く可能性を指摘されました。技術士の称号を持って一人静かに満足していても意味がありません。その技術で社会に貢献してこそ意味があるもので、県内の技術士全員を会員とし、それぞれの専門技術をまとめて世間に知らしめる必要があるのではないかと強く考えさせられました。(社)日本技術士会プロジェクトチーム熊本技術センターでは、NPO みらい有明・不知火の活動が主となり、6月14日の総会に合わせて、これまでの研究成果発表会と今後の取り組みについてシンポジウムを開催いたします。技術士だよりが届く頃は19年度の目標に向かった取り組みがなされていることでしょう。

宮 崎

小さな恩返し

NPO 法人みやざき技術士の会
幹事 菅 忍
(建設)



私は平成13年度に技術士となり、今年で6年目を迎えます。

私は普通科高校卒業で、平成元年、宮崎県清武町役場に一般事務職として採用されました。

平成4年から都市計画課に配属され、都市計画の仕事に携わることになりましたが、技術者としての経験、知識のないまま業務に携わることとなりました。

また、平成4年は都市計画法が改正され、新用途地域制度への移行や都市計画マスタープランの策定をしなければならませんでした。その際、初めて

「技術士」という資格を知るとともに、懇意にしていた宮崎大学工学部の吉武准教授の薦めもあり、技術士取得を目指そうと決めました。

それからは、先輩諸氏の温かいご指導の元、業務を進めるとともに、技術士試験の勉強を積み重ね、2度目の受験で合格することができました。

この合格を機に、技術者としての道を歩むとともに、ご指導いただいた皆様への小さな恩返しということで、「NPO 法人みやざき技術士の会」の事務局を引き受け、技術士を目指される技術者の方に対してのセミナー等を開催しています。

私のような者が技術士であるのは、大変おこがましいのですが、技術士となった以上、その名を汚すことのないよう、常に自己研鑽に努めるとともに、公益の確保を最優先に、公僕としての使命も果たしていきたいと考えています。

また、多くの技術士が誕生し、宮崎県の発展に寄与できるよう、皆と力を合わせていきたいと考えています。

鹿児島

平成18年度下半期以降の活動報告

鹿児島地区代表幹事 後藤 祐一郎
(建設、総合技術監理)

鹿児島県技術士会では、CPD 対応技術研鑽会や技術講演会などの活動を行っています。平成18年度下半期以降の活動について報告いたします。

CPD対応技術研鑽会は、会員持ち回りで講師を務めて行っています。

下半期の研鑽会のテーマは次の通りです。

- 10月研鑽会 鹿児島県における水産土木
講師 黒川 陽一さん
- 11月研鑽会 美しい原風景の為の技術的手法
講師 岸野 純一さん
- 1月研鑽会 地域づくりと港湾とのかかわり
講師 上小鶴 博さん
- 2月研鑽会 水田農業の再編
講師 久保 章さん

3月研鑽会 はだかの王様と科学技術

講師 三田 和朗さん

平成18年度第二回の技術講演会は、青年部の主催で、「最近の気象及び気象災害」をテーマに、鹿児島地方気象台の横田 茂樹予防課長さんに地方特性を交えた貴重な興味深いご講演をいただき、会員の好評を得ました。

平成19年度の定期総会は、4月28日会員名出席のもと開催され、平成18年度の事業報告、収支決算、平成19年度の事業計画、予算などの審議を行い、原案の通り可決承認されました。

事業計画では、CPD 対応技術研鑽会・技術講演会を継続実施することのほか、日本技術士会への加入促進、関係団体への講師派遣、鹿児島工業高等専門学校との連携協力などが決定されました。

また役員改選も行われ新役員も決定致しました。

平成19年度第一回技術講演会は、総会后「エネルギーと環境問題」という題で、九州電力株式会社平野 和隆さんにエネルギー情勢、電気事業の概要、原子力と環境など時宜を得たご講演をいただき興味深く拝聴しました。

大分

大分 CPD の初開催

大分県技術士協会／副会長
CPD 委員長 高木 茂
(建設、総合技術監理)



「なんかしゅうえ！」

昨年度役員の改選があり活動の在り方の議論を経て会員の意見をアンケート調査することになった。調査結果で最も希望が多かったのは大分での CPD 研修でありこれを受けて CPD 委員会が設置された。

委員の負担を押さえるべくメーリングリストにて意見交換を行い委員会の開催は最少頻度にとどめることとし本年1月19日に第1回の委員会を開催した。

「かてちくり〜！」

同じ頃大分県測量設計業協会に於いても技術研修委員会が中心となって RCCM の CPD 義務化への対応を検討しており我々の動きと協働できないか？との打診を受けた。費用負担と役割分担で双方共にメリットが大きいと判断し3月30日に合同委員会を開催し詳細確認に至り CPD 開催への弾みとなった。

「しらしんけん！」

試行錯誤ではあったが企画立案、講師依頼、認定申請、会場手配、会計、資料準備等の分担を決め真剣に取り組んだ結果4月28日に下記内容にて無事開催され129名の参加を得た。

- ・平成19年度大分県土木建築部の方針と施策
〈妹尾忠幸氏〉
- ・南極における探検・調査の一断面 〈由佐悠紀氏〉
- ・斜面崩壊と降雨量との関係 〈玉田文吾氏〉
- ・衛星画像技術と利用事例 〈中川透氏〉
- ・液状化及びその調査事例 〈宮崎辰彦氏〉

「あげ〜！こげ〜！」

今回のような6時間研修を共催にて3回／年、技術士協会独自行事として互礼会と総会に組み込み CPD を2〜3時間、その他に見学会を1回／年予定しているが

- ・会員のほとんどが建設および関連部門であり他部門会員への配慮のありかた？
- ・継続的活動として定着さすための仕組みの確立？
- ・CPD がポイント稼ぎの場として形骸化しない工夫？

等を課題として念頭におき今後とも充実した CPD を目指したい。

I

技術士センター講師 15年から学んだこと

竹内 良治

(建設、上下水道、衛生工学、
総合技術監理・北九州)



1. はじめに

平成3年度、本講座の受講生として合格させていただき、翌年から講師として15年が経ちました。平成18年度でセンターが解散され、19年度から、試験の大変革があり、内容は周知のことと思います。この変革は、試験が一見やさしくなったように見えますが、試験の土俵がhomeからawayに移ってしまいました。すなわち、部門と選択科目の知識が問われ、これに合格した者が経験、見識を問われるわけです。司法試験や学位と同じように取得年代を20代にしたいようです。受験奮闘中の方は、なんとかここ1、2年で決着をつけたいものです。

そこで、15年間に印象深かった受講生をとおして学んだこと、試験の題意に関するヒントなど、二次筆記試験を一ヶ月後に控え、受験の1点アップでもなればと思い、拙文をしたためてみました。

2. 巨匠（主に建設環境の受講生）5例

① 専ら一の技術部門に関するものを除く

平成4年度から環境部門が加わり、表記の括弧書きが付されました。この真意を体験させられました。ある年、植物の専門家二名が受講されました。どちらも優秀で失敗話と成功話で、両名に合格点をつけました。ところが、成功話が不合格になりました。両者の論文を良くみると、失敗話は動物の糞に触れていたが、成功話は植生のみでした。正に表題の「除く」に触れたようです。翌年、けもの道付加で合格しました。糞が合否の分岐点。

② 試験の題意に目からうろこ

私は合格しても試験の題意が明確にわかりませんでした。平成11年度、受験説明会の合格者体験談で、この試験は受験者の技術力もさることながらコンサル力を問うている試験です。クライアントは試験官です。その視点で見れば、問題の本質は同じものが

出されています。この言葉で目からうろこが落ちました。

コンサル力の意味で、多忙な受講生の出席が最初の1回だけでした。後の3回は朝9時に講習会場にいられて、今日は土曜出勤なので欠席させていただきます。もちろん翌年合格されました。多忙が受験不可の理由ならない、多忙と苦労は他人が評価。

③ 餅は餅屋

既に河川と総合技術監理を取得されている受講生が来ました。Whyと問うと、自分で2回受験したが、不合格なので「餅は餅屋」と受講しました。なんと切替えの早いsmartな方と感心しました。

そこで、〇〇川のローカリティ性、歴史、個性を東京の試験官に訴えるべく論文を構成していきました。受講生が謙虚な方で、あっさり合格しました。3回不合格なら、勉強方法を変えるべき教訓です。

④ 不合格の原因解明に6年

下水道（後に総合）を取得された受講生でした。下水管を推進工法で布設中に出水し、その対策秘話です。内容もしっかりしており、私は合格としたが、不合格でその理由もわかりませんでした。

6年後、口答試験の講習会での論文で、同じ工事をしていて、付近の住宅壁にひびが入り、原因調査すると水を含んだ層があり、出水を未然に防いだとあり、出水させては应用能力不足でした。

⑤ 悟り

30代の長期受講生でした。論文を書く前に、富山和子著「水の文化史」と「江戸時代人づくり風土記」を薦め、川の歴史を勉強してもらいました。その結果、良い論文にまとまりました。口頭試験の前に手紙が着て、自分は「無知の自覚と学ぶ楽しみを覚えたことが収穫」で試験の合否はどうでもよいと。これこそが試験の極意そのものではないでしょうか。

3. おわりに

この試験は、表面的には様式の変化があるようですが、技術士というコンサルタントの試験という意味で本質は不易なのです。環境、廃棄物が全部門共通でこれに危機管理、減災が加わったようです。周りに受験者いらしたら、適切なご助言でインセンティブを高めてください。

Ⅱ

起承転結と PDCA

桐原 敏
(建設・長崎)



私は現在53歳。老後や定年後について考えることが、以前より多くなった。特に一年一年があっという間に過ぎていく感覚があり、過去を顧み、これからの自分についても考えてみたい。

充実した人生を送るには自分史的な「物語り」や「語り草」となるような「起承転結」が必要であるが、辞書では以下のように定義されている。

- ・起：物語の導入部。
- ・承：物語の核となる「転」につなぐ役目で、あまり大きな展開はないのが普通。
- ・転：物語の核となる部分で、最も盛り上がりを見せる部分。
- ・結：最終的にどうなったか締めくくる部分。

一方、「PDCA」はISO等の品質管理活動では聞かれた言葉であるが、一般に品質管理システムに関して以下のように定義されている。

- ・P (Plan：計画)：従来の実績や将来の予測などを基に計画を立てる。
- ・D (Do：実施・実行)：計画に沿って実施する。
- ・C (Check：点検・評価)：計画に沿っているか確認する。
- ・A (Act：処置・改善)：計画に沿っていない部分を調べて処置する。

とされている。

言葉の生まれた経緯は全く異なるが、私たちの日々の行動・生活に深く関わっており、またいくつかの共通点もあり、これらの意味を考察してみた。この二つは大きな共通点は4段階で分かれていること、物事を論理的にかつスムーズに進めるために、お互いが関連して次のステップに進むシステムであるということである。

平均寿命80年といわれる時代に、企業人として活動する期間は一般に20～60歳代までの約40年であり、単純に4等分すると、現在50歳代の私は人生80年のなかでは「転」及び「C」の段階にあり、一企業人としては「結」及び「A」の段階にある。

20歳代は「起」及び「P」の段階であり、目標を決めて行動を起こす時期で、最終目標は必ずしもはっきり定まったものでなくても良く、基本的な方向性が見えればよいと思う。この段階では目標を公言する（コミットする）習慣と基礎的素養を身に付け、「技術士補」を目指す時期でもある。

30歳代は「承」及び「D」の段階であり、目標に向かってがむしゃらに前進する時期である。ここでは次の最も重要なステップに進むために全力疾走が必要で、必ずしもすべてが報われるとは限らないが、気力・体力とも特に充実し、より高度の技術を得る時期である。この段階の成果のひとつとして「技術士」を目指す時期でもある。

40歳代は「転」及び「C」の段階であり、これまでの成果を検証し、また経験をフルに生かすことによって最も完成度の高い成果を創り出す時期である。技術士の資格もこれらの成果を得るための大きな武器となる。

50歳代は「結」及び「A」の仕上げる段階で、経営感覚等を身に付け、次世代の技術者の育成や社会貢献を視野に入れた幅広い活動・行動をしたいものである。

60歳以降は体力の衰えを知力でカバーし、新しい起承転結またはPDCAに挑戦してみたい。まだ今はその準備段階であり、そのあるべき姿・形ははっきり見えないが、新しい挑戦ができると考えるとわくわくする。

とりあえず今、確実にできることは、体力・健康の維持であり、とりあえず昨年から休肝日を週2日設け、今年からは食事をゆっくり摂ることとした。当面の目標は体質改善（運動、食生活改善によるメタボ予備軍からの脱却）と、知的改善（読書習慣の復活と未知の分野に関する知的資格への挑戦）である。

(社)日本技術士会

海外業務促進実行委員会の活動報告



九州委員 宮田 守次
(金属・北九州)

ここでは最近の海外業務促進実行委員会（以下本実行委員会という）の活動状況について報告する。

1. 主な目的

本実行委員会の主な目的は技術士の海外業務活動促進を図るために海外業務の情報収集及び紹介、技術士の海外業務遂行能力向上のための研修会の開催等である。

2. 組織と運営

本実行委員会は毎月1回開催し、組織として①組織・制度、②情報、③業務開発、④研修の4小委員会で活動している。

主要項目としては、① 国内及び海外公的機関を対象とする、技術士業務開発活動、② 会員技術士に対する海外関連業務の紹介、③ 海外志向会員名簿の作成、④ 会員に対する海外業務関係情報の提供と啓蒙活動、⑤ 中国との提携協議書に基づき、中国以外の国での契約においても通用する、短中期専門家コンサルタント契約向け標準約款の日本語、英語版を作成している。なおこれ等の活動はホームページで公開している。

3. 最近の主な活動

1) 中国瀋陽市の中国国際人材交流大会展示会場での日本技術士会宣伝活動

2006年9月20～21日に中国瀋陽市外国専門家局等の主催で開催されたもので、(社)日本技術士会も招待さ



ブースでの対応者及び現地通訳等

れ、3ブースを無償提供され、筆者を含む日本技術士会代表3名が日本技術士会の宣伝活動を行ってきた。

その結果展示会場で42件の専門家派遣の相談があった。

2) 中国からの専門家派遣要請件数の急増

その後2006年11月に中国山東省より、164件の専門家派遣要請リストが届き、2007年3月には、中国大連市より76件236名の専門家派遣要請リストが届いた。

3) 欧州復興銀行よりの技術指導専門家派遣要請
欧州復興開発銀行よりロシア、東欧、中央アジア対象に毎月5～6件の専門家要請リストが届いている。

4) 韓国からも専門家派遣要請が来ている。

それらを技術士会ホームページ等で広報している。

このように本実行委員会の海外諸国への技術士派遣宣伝活動の成果は確実に成果が上がっている。

今回大連市の要請に5名の技術士が応募し、5月24日～27日に旅費等を大連市側負担で招待され面談に行ってきた。

しかし急増する要請人数に対して、技術士のみなさんからの応募は極めて少ないのが現状である。積極的な海外指導の意欲喚起が望まれている。

5) 海外研修会の実施

毎年実施しているが、2006年11月18日に中国大使館一等書記官朴明哲氏及び JICA, JETRO より業務の責任者を講師として招き、実施した。

6) 中国大連市外国専門家局とのコンタクト

中国大連市は2000年11月21日大連市と日本技術士会共催で東京プリンスホテルで「大連市人材招聘大会」を開催し、大連市関係者と日本の参加者との間で、案件説明や処遇などの条件について相談が行われた。

国際溶射会議2007 —Global Coating Solutions— 参加報告



坂田 一則
(金属、総合技術監理・北九州)

1. はじめに

2007年5月14～17日に北京で開催された国際溶射会議 (International Thermal Spray Conference 2007) に参加した。最新の溶射技術情報を報告する。

2. 溶射技術と国際溶射会議

溶射法の原形は、U. Schoop (スイス) が1910年頃に開発したとされ、約100年の歴史を有している。現在では、表面技術の1領域として、産業界で広く活用されている。溶射技術は、被覆したい材料を溶融・噴射し、数 μm ～100 μm 程度の大きさの粒子を高速で基材表面に衝突・積層し、基材にない機能 (例えば、耐摩耗性・耐食性や耐熱性等) を付与するために使用される。具体的には、航空機のエンジンのメンテナンス技術としては不可欠であり、省エネルギーのためのボイラーチューブや製鉄プラントの連続鋳造設備などの長寿命化に貢献している。

この国際溶射会議は2000年からスタートし、北米・アジア・ヨーロッパの順番で開催されている。去年はシアトル (米国)、今年は北京 (中国) で開催され、来年はマーストリヒト (オランダ) で開催予定である。

3. 国際的な溶射技術の動向

今回は口頭発表 (論文提出) が241件、ポスターセッションが60件あった。

溶射技術を17の範疇に分けてセッションが行われたが、その中で発表件数が多かった上位のセッションを紹介する。

- 1) 皮膜の性質・特性および試験方法…34件
- 2) セラミックと熱遮蔽皮膜 …31件
- 2) コールドスプレー …31件
- 4) プラズマ溶射 …23件
- 5) モデリングとシミュレーション …21件
- 5) 応用とケーススタディー …21件

この中で、特に近年、発表件数が増加しているのは「コールドスプレー」技術で、粉末材料を熔融温度まで加熱しないで皮膜を形成する方法で、従来の溶射技術より金属材料の場合、酸化量が少ない、皮

膜が緻密 (気孔が非常に少ない) 等の特徴があるため、研究・開発が進められている。日本におけるコールドスプレーの研究は欧米や中国・韓国に比べ遅れており、今後、基礎的な研究と共に用途開発等に注力することが必要であると感じた。

その他、ナノ材料、HVOF (High Velocity Oxy-Fuel: 高速フレイム) 溶射、生体材料への応用およびタービン等の高効率化のための熱遮蔽・高温耐食耐摩耗皮膜などの今後の展開が期待される。

4. 表彰論文について

今回の国際会議の発表論文 (241件) 中、13件が表彰された。その中の1件に、著者の投稿論文が選ばれた。これは、九州大学で実施した「コバルト基自溶合金の加熱拡散処理によるミクロ組織制御」に関する研究で、久留米高専・大分高専を含む共同研究の成果である。本研究は、硼素や珪素を数%含有させたコバルトクロムタングステン系合金皮膜の耐摩耗性を向上させるために、微細な硼化合物を均一に分散させた微小组織を加熱拡散処理により析出制御するためのもので、鋼の連続鋳造設備のモールドへの適用を目指している。



5. 北京雑感 (終わりに代えて)

国際会議会場の国際コンベンションセンターは、建設工事中の北京オリンピックスタジアムの近くで、風が強い日には、砂埃が舞う状況であった。市中心街付近では、旧住居街が壊されて、近代的なビルの建設が行なわれていた。その反面、物乞い、子供による引手繰り、押し売り等を目の当たりにして、経済発展とその歪を実感した。(富士岐工産(株)勤務)



修習技術者の声

資格挑戦のきっかけ

長崎 義弘
(応用理学・佐賀)



1990年代の建設コンサルタント業界は、右肩上がりの好景気が続き、私の勤める会社でも年間を通して業務が途切れることなく、次々と受注できる状態でした。私自身は、地質調査に携わっているのですが、当時は毎年ボーリング調査の現場管理で九州各地を飛び回っていました。

その頃の私は、与えられた仕事を一つ一つこなすことで充実感を得、資格取得の必要性など感じることはありませんでしたが、ある事件が私を変えたのです。

それは、ある役場発注の業務での初回打合せの出来事でした。打合せが終って、私が席を立とうとすると、発注担当の方が私の業務経歴書を手に持って、「資格は何も持っていないのですか？」と尋ねられました。私は「はい、何も持っていないが」と答

えると、その担当者は、「本当に何も持っていないの」と何度も問い直し、怪訝な顔をしていました。（この人に任せて大丈夫だろうかと思われたに違いありません）この事件があって以来、発注者の信頼を得るためにも必ず何か資格を取ろうと決意しました。

その年、私は“地質調査技士”の試験に合格し、今でもこの時の喜びは忘れられません。その後、技術士補の試験に合格し、現在は二次試験の合格を目指して、努力しているところです。

現在の建設コンサルタント業界は、仕事量が激減する中、品質の向上が求められるなど厳しい時代を迎えています。また、個々の技術者の技術力が厳しく評価されるようになり、以前に増して資格が重視される社会的傾向が強まったように感じます。

今から思うと、あの時、あの役場の担当者が私に、「資格は何も持っていないの？」と何度も問い直さなければ、資格取得の意欲も湧かなかったかもしれませんし、今でも無資格のままであったかもしれません。今では、私に資格取得の意欲を沸き立たせてくれた、あの役場の担当者に大変感謝しています。

(社)日本技術士会の新たなシンボルマークの制定について

本会の新たなシンボルマークの公募に対して会員等の皆さん38名から84件の応募があり、最終的に平成19年5月13日理事会において以下のとおり決定されましたので、お知らせします。

新シンボルマークの利用

- ・平成20年6月末までを周知期間とし、それまでの間は現行マークとの併用を認め、以降は原則として現行のマークは利用しないものとします。
- ・カラー版マークや、会員の皆さんが名刺等へ利用される場合の、原図等は本会ホームページを参照下さい。

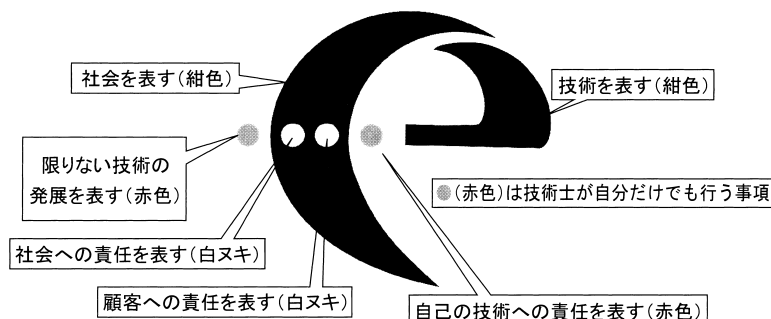
(月刊「技術士」2007年6月号より抜粋)

〔新しいシンボルマークの意味〕

The Institution of Professional Engineers, Japan (IPEJ)

のPEを小文字のpとeで表す。また、pとeには同時に、これからの技術者が心砕くべき、安心・安全、健康で平和な社会や、豊かな環境を表すとともに高い倫理観に立脚した技術士の意味もこめている。

p: Professional + peace, e: Engineer + environment, ethics



〔新しいロゴマーク〕



会員ニュース

☆(社)日本技術士会（九州支部）入会

〈平成19年1月〉

(所在地)	(区分)	(氏名)	(部門)	(勤務先)
福岡	正会員	鹿島 脩一	電気電子	ユニバーサルパワー・E's(株)
福岡	正会員	中村 一	電気電子	福岡市交通局車両部
福岡	正会員	淵上 義弘	電気電子	(株)九電工営業本部電気設計部
長崎	正会員	上戸 好美	金属	三菱重工業(株)高砂製作所工作部
福岡	正会員	石丸 勇	建設	(株)西日本測研社
福岡	正会員	入江 大	建設	(株)新栄設計事務所福岡支社
福岡	正会員	内田 万作	建設	(株)三洋コンサルタント九州支店代表取締役会長
福岡	正会員	大石 理	建設	小牧建設(株)福岡支店
福岡	正会員	鬼塚 二男	建設	(株)上村技研福岡営業所
福岡	正会員	佐藤 秀輝	建設	(株)パスコ九州事業部 総合技術
福岡	正会員	佐野 忍	建設	鹿島建設(株)九州支店営業部
福岡	正会員	柴田 剛志	建設	いであ(株)九州支店 環境 総合技術
大分	正会員	末廣 孝義	建設	(株)川原建設
福岡	正会員	杉本 正二	建設	福岡県土木部 総合技術
福岡	正会員	高橋 健二	建設	東洋測量設計(株)福岡支店
鹿児島	正会員	立山 徳雄	建設	朝日開発コンサルタンツ(株)
宮崎	正会員	土屋喜二郎	建設	
大分	正会員	恒松 泉	建設	(株)建設コンサルタントサニー 総合技術 代表取締役社長
福岡	正会員	歳田 正夫	建設	(株)ノパック九州支店
佐賀	正会員	南里 勝	建設	(財)公園緑地管理財団吉野ヶ里 総合技術 公園管理センター
宮崎	正会員	治田 賢二	建設	宮崎地盤テクノリサーチ(有)
福岡	正会員	平原 淳次	建設	(株)五省コンサルタント
福岡	正会員	藤田 筆司	建設	ケミカルグラウト(株)九州支店
福岡	正会員	松下 幸正	建設	(株)西部技術コンサルタント
佐賀	正会員	南嶋 佳典	建設	国土交通省九州地方整備局
福岡	正会員	篠崎 照秀	上下水道	(株)千代田コンサルタント九州支店
宮崎	正会員	平野儀太郎	上下水道	南興測量設計(株)
福岡	正会員	伊藤 誠一	衛生工学	日本ERI(株)福岡支店確認第1部
福岡	正会員	木崎 靖宏	森林	日豊サーベ(株)専務取締役
福岡	正会員	田中 孝一	森林	福岡県飯塚農林事務所
熊本	正会員	中村 陽兒	森林	(社)日本森林技術会九州事務所
熊本	準会員	田中 裕一	機械	八代工業高等専門学校
福岡	準会員	西尾 行生	機械	パナソニックコミュニケーション(株)
福岡	準会員	野元 裕介	機械	(株)セラヴィ総合受付
長崎	準会員	田島 祥朗	電気電子	三菱重工業(株)長崎造船所品質保証部
鹿児島	準会員	鮫島 仁哉	建設	(株)植村組土木部
大分	準会員	高橋 浩樹	建設	大分市水道局管理部
長崎	準会員	荒木 健二	上下水道	長崎市上下水道局下水道部
長崎	準会員	奥田 敏博	衛生工学	(株)九電工長崎支店空調管技術部

福岡	準会員	力丸 寿治	衛生工学	大橋エアシステム工務部
宮崎	準会員	海老原範義	農業	(株)海老原測量設計コンサルタント
宮崎	準会員	金丸 俊一	農業	大正測量設計(株)宮崎支店測量業務部
長崎	準会員	山邊 繁夫	農業	(株)九電工長崎支店空調管技術部
福岡	準会員	山本 浩明	情報工学	富士通九州ネットワークテクノロジー(株)第五開発部
長崎	準会員	秋吉 俊明	生物工学	医療法人ARTウーマンズクリニック検査室
福岡	準会員	江崎 豊	生物工学	(株)ダイショー福岡工場
福岡	準会員	小堀 晃作	環境	TOTOウォッシュレットテクノ(株)研究部
福岡	準会員	秋山 肇	原子力・放射線	三菱電機(株)パワーデバイス製作所パワーデバイス開発部

〈平成19年2月〉

(所在地)	(区分)	(氏名)	(部門)	(勤務先)
福岡	正会員	仲野 直路	電気電子	(株)九電工教育センター
福岡	正会員	神谷 欣宏	金属	(株)日立金属若松
福岡	正会員	今田 尊徳	建設	日本地研(株)技術一部 総合技術
福岡	正会員	上村 洋司	建設	西日本技術開発(株)営業部
福岡	正会員	牛垣 徹	建設	(株)明和エンジニアリング
福岡	正会員	江藤 光博	建設	(株)竹中土木九州支店 総合技術
福岡	正会員	木村 泰三	建設	木村技術士事務所
長崎	正会員	五反田 進	建設	(株)総合建設コンサルタント
福岡	正会員	佐藤 幸甫	建設	(株)さとうベネック福岡支社相談役
福岡	正会員	塩満 龍男	建設	(有)シー・ケイコンサルタント
宮崎	正会員	田中 公博	建設	旭建設(株)営業本部 総合技術
福岡	正会員	常光 孝一	建設	(株)都市開発コンサルタント 総合技術
福岡	正会員	藤本 哲明	建設	鹿島建設(株)九州支店営業所
大分	正会員	帆足 渉	建設	西日本コンサルタント(株)
長崎	正会員	金山 泰久	衛生工学	長崎市環境部
福岡	正会員	佐々木 紀	森林	(株)明和エンジニアリング 総合技術
鹿児島	正会員	塩満 捷夫	水産	塩満水産事務所
大分	正会員	冷川 久敏	水産	日本地研(株)大分支店 総合技術
福岡	正会員	吉田 智治	応用理学	(株)建設技術研究所地圏環境室 総合技術
福岡	準会員	秋山 剛	機械	(株)日進開発工業
鹿児島	準会員	阿部 裕一	機械	京セラ(株)ファインセラミック技術開発部
鹿児島	準会員	慶田 昭彦	機械	鹿児島機工(株)技術部
宮崎	準会員	比良 貴浩	機械	(株)ホンダロック生産技術部
熊本	準会員	福田 泉	機械	八代工業高等専門学校
福岡	準会員	森園 仁彦	機械	ジョンソンコントロールズ(株)九州支店
宮崎	準会員	内山暉一郎	船舶・海洋	

福岡	準会員	秋好 政徳	電気電子：雇用・能力開発機構九州職業能力開発大学校
福岡	準会員	入江 太郎	電気電子：隔測計装(株)産機計測部
長崎	準会員	甲斐 健二	電気電子：長崎県立佐世保工業高等学校
宮崎	準会員	明比健一郎	建設：串間土木事務所
長崎	準会員	大隅 宏	建設：(株)サンヨーナイスコーポレーション福岡営業所
福岡	準会員	緒方 常雄	建設：(株)エフディイー土木管理部
福岡	準会員	梶原 俱美	建設：
熊本	準会員	工藤 明	建設：カラル(株)
熊本	準会員	竹村 和彦	建設：一級建築士事務所タケムラ設計区
長崎	準会員	西村 晃一	建設：旭建装(有)
福岡	準会員	畠山 賢志	建設：(株)九州測量設計
大分	準会員	姫野 松男	建設：大分県庁日田土木事務所
鹿児島	準会員	福元 光治	建設：(有)永山設計事務所
佐賀	準会員	藤橋 健次	建設：コーダ技研(株)
宮崎	準会員	水迫 清市	建設：(有)東方建設コンサルタント
鹿児島	準会員	水元 繁樹	建設：
福岡	準会員	横山 恵三	建設：福岡市役所土木局道路建設部
大分	準会員	阿部 義明	上下水道：(株)九州設備公社弁天事務所
熊本	準会員	岩野 博	上下水道：(株)岩昭電機
宮崎	準会員	古志野利孝	上下水道：旭有機材工業(株)新規・開発本部
長崎	準会員	松尾 純一	水産：長崎県五島地方局上五島土木事務所
福岡	準会員	渡辺 茂樹	水産：いであ(株)九州支店環境コンサルタント事業部
大分	準会員	野崎 浩司	生物工学：(株)日本生物科学研究所九州研究室
福岡	準会員	廣 紀彦	生物工学：理研農産化工(株)福岡工場品質管理部
鹿児島	準会員	下園 寿秋	環境：鹿児島県林業試験場育林地部

〈平成19年 3 月〉

(所在地)	(区分)	(氏名)	(部門)	(勤務先)
大分	正会員	戸田 新矢	電気電子：	(株)NHKアイテック
鹿児島	正会員	東 伸一	電気電子：	三菱重工業(株)新印刷機械事業部
福岡	正会員	戸木田康男	金 属：	戸木田技術士事務所
鹿児島	正会員	内村 正樹	建設：	(株)久永コンサルタント設計部
福岡	正会員	加藤 啓文	建設：	
鹿児島	正会員	隈崎 博一	建設：	鹿児島県北薩地域振興局建設部
福岡	正会員	恒藤 充	建設：	恒藤技術士事務所
福岡	正会員	直江 延明	建設：	(株)九州地方計画協会
福岡	正会員	橋村 和敏	建設：	(株)九州地方計画協会
福岡	正会員	万代 幸二	建設：	福岡市南区役所地域整備部
福岡	正会員	森 正明	建設：	サンコーコンサルタント(株)九州支店技術部
大分	正会員	山田 智通	建設：	九州建設コンサルタント(株)
鹿児島	正会員	前田美樹朗	衛生工学：	(財)鹿児島県環境検査センター環境検査部
佐賀	正会員	佐藤 末廣	農業：	九州農政局筑後川下流農業水利事務所

長崎	準会員	入江 直樹	機械：	長崎県工業技術センター基盤技術部
鹿児島	準会員	川添 敦之	建設：	国立鹿児島工業高等専門学校
福岡	準会員	池永 正幸	上下水道：	日本水工設計(株)九州支社
長崎	準会員	前田 貴信	情報工学：	佐世保工業高等学校
福岡	準会員	中山 賢治	原子力・：	(有)中菱商事放射線

〈平成19年 4 月〉

(所在地)	(区分)	(氏名)	(部門)	(勤務先)
長崎	正会員	古賀 重徳	機械：	三菱重工業(株)長崎造船所ボイラ技術部
福岡	正会員	川島 清	電気電子：	千代田産業(株)
福岡	正会員	中村 憲和	金 属：	福岡県工業技術センター機械電子研究所
福岡	正会員	赤木 信雄	建設：	(株)ニュージェック九州支店
福岡	正会員	金原 雄二	建設：	(有)金原建設
鹿児島	正会員	上小鶴 博	建設：	東光コンサルタンツ鹿児島営業所
宮崎	正会員	久保 三男	建設：	宮崎市役所都市整備部
福岡	正会員	齊藤雄三郎	建設：	西田鉄工(株)福岡支店
大分	正会員	柴村 宗仁	建設：	(財)大分県建設技術センター企画研修部
福岡	正会員	砂川 直之	建設：	(株)日本港湾コンサルタント九州支社技術部
福岡	正会員	住田 裕志	建設：	五洋建設(株)本社土木設計部
宮崎	正会員	新村 和規	建設：	西部建設(株)コンサル長崎
福岡	正会員	西村 秀夫	建設：	九建設計(株)福岡支店総合技術
大分	正会員	平川 昌寛	建設：	九建設計(株)設計部
福岡	正会員	藤井 実	建設：	北九州市役所港湾空港局
福岡	正会員	前田 泰之	建設：	セントラルコンサルタント(株)九州支店技術部
宮崎	正会員	右松 芳明	建設：	(株)宮崎産業開発
福岡	正会員	元田 啓一	建設：	(株)東九州コンサルタント技術部
福岡	正会員	山崎 祐一	建設：	日本工営(株)福岡支店技術部
福岡	正会員	吉村 継彦	建設：	西鉄シー・イー・コンサルタント(株)設計1部
福岡	正会員	渡邊 利夫	建設：	(株)竹中土木九州支店工事部
福岡	正会員	赤木 信雄	上下水道：	(株)ニュージェック九州支店
福岡	正会員	蜂谷 一彦	上下水道：	(株)シーティーアイグランドプランニング
福岡	正会員	谷川 哲也	衛生工学：	(株)九電工営業本部空調管設計部
福岡	正会員	日比野 満	衛生工学：	日比野環境リサイクル技術事務所
宮崎	正会員	黒木 修一	農業：	宮崎県農政水産部
福岡	正会員	久保田 裕	応用理学：	中前中嶋国際特許事務所
福岡	正会員	田中 貴人	応用理学：	昭和地下工業(株)技術部
福岡	正会員	福田 久弥	応用理学：	日本地研(株)代表取締役
長崎	正会員	平田 秀一	環境：	(社)長崎県食品衛生協会環境科学試験所分析室
福岡	準会員	森下 毅一	電気電子：	ジョンソンコントロールズ(株)九州支店計装技術グループ
鹿児島	準会員	泉 憲作	建設：	(株)萩原技研技術部
佐賀	準会員	久光 恵	農業：	日化エンジニアリング(株)岡山事務所技術部

御協力いただいている 賛 助 会 員

.....〔福岡〕.....	いであ(株)九州支店	大洋測量設計(株)
日本総合コンサルタント(株)九州支店	大和コンサル(株)	西日本コンサルタント(株)
(株)建設環境研究所	アジアエンジニアリング(株)	東洋測量設計(株)
(株)唯設計事務所	〔北九州〕.....	九建設計(株)
中央開発(株)九州支社	日本航測(株)	日進コンサルタント(株)
(株)ダイヤコンサルタント九州支社	(株)九州設計事務所	ダイエーコンサルタント(株)
日本工営(株)福岡支店	九和設計(株)	〔宮崎〕.....
昭和地下工業(株)	(株)都市開発コンサルタント	(株)弓場水工コンサルタント
第一復建(株)	(株)松尾設計	(株)ロードリバーコンサルタント
(株)松本組	(株)酒見設計	(株)ケイディエム
(株)エスケイエンジニアリング	(株)太平設計	(株)親協
(株)福山コンサルタント	環境テクノス(株)	南日本総合コンサルタント(株)
(株)東京建設コンサルタント九州支店	〔佐賀〕.....	(株)宮崎産業開発
東邦地下工機(株)	新九州測量設計(株)	(株)西田技術開発コンサルタント
大成ジオテック(株)	西日本総合コンサルタント(株)	(有)福島測量設計調査事務所
富洋設計(株)九州支社	日本建設技術(株)	九州工営(株)
(株)サンコンサル	(株)九州構造設計	正栄技術コンサルタント(株)
(株)橋梁コンサルタント福岡支社	新栄地研(株)	(株)東九州コンサルタント
(株)アイ・エヌ・エー九州支社	〔長崎〕.....	日測コンサルタント(株)
(株)九州地質コンサルタント	大栄開発(株)	(株)ダイワコンサルタント
(株)タイヨー設計	(株)実光測量設計	(株)白浜測量設計
日鉄鉱山コンサルタント(株)九州支店	西日本菱重興産(株)	南興測量設計(株)
(株)大建	大洋技研(株)	(株)アップス
新地研工業(株)	(株)親和テクノ	(有)カツキ技術士事務所
(株)カミナガ	(株)新栄設計事務所	(株)国土開発コンサルタント
平和測量設計(株)	扇精光(株)	(株)都城技建コンサルタント
(株)高崎総合コンサルタント	〔熊本〕.....	〔鹿児島〕.....
西日本コントラクト(株)	(株)九州開発エンジニアリング	中央テクノ(株)
西鉄シーイーコンサルタント(株)	アジアプランニング(株)	朝日開発コンサルタンツ(株)
日本地研(株)	〔大分〕.....	(株)久永コンサルタント
第一設計(株)	松本技術コンサルタント(株)	コーアツ工業(株)
九州環境技術研究所	協同エンジニアリング(株)	大協(株)
西日本技術開発(株)	(株)日建コンサルタント	(株)建設技術コンサルタンツ
(株)富士ピーエス	東亜コンサルタント(株)	
(株)構造技術センター九州支社	九州特殊土木(株)	

平成19年度九州支部 第2回 CPDのご案内

日時：7月28日（土） 10：00～17：00

会場：福岡商工会議所（福岡市博多区博多駅前）

研修内容と講師

①海外業務（中国、韓国）について（仮題）（A-10）

講演者：宮田守次先生（金属・北九州）

②未来へのシナリオ「ストック型社会」（仮題）（A-5）

講演者：次世代システム研究所所長

岡本久人氏

③「宇宙のチリ衝突に対する評価技術」（仮題）（A-4）

講演者：趙教授（九州工業大学）

④「軟弱地盤に対する研究の歩み」（仮題）

講演者：三浦哲彦先生（佐賀大名誉教授・軟弱地盤研究所 所長）

九州支部のメールアドレス、 ホームページ URL の変更

新メールアドレス：pekyushu@nifty.com

新ホームページ URL：

<http://homepage2.nifty.com/pekyushu/>

会誌“技術士”最近の主要目次

[PE] 技術士4・2007

- ・（社）日本技術士会、技術士への期待／林 幸秀
- ・食品の安全を巡る内部告発の役割とその保護の限界／上野曄男
- ・携帯電話技術発展の歴史と展望／森島光紀
- ・防護服／井手俊二
- ・金属工学の過去・現在・未来／田中和明
- ・第26回地域産官学と技術士の合同セミナー（福岡）／三浦哲彦

[PE] 技術士5・2007

- ・地球環境の危機にあたって／野嶋 孝
- ・技術者の国際的活動と規範／橋本義平
- ・中小企業のIT戦略／佐藤康生
- ・健康食品の安全性と社会情勢／卯川裕一
- ・銅鉱山における湿式製錬法（銅浸出／SX/EW）の進展／今井哲男
- ・市民のための科学技術・白浜カンファレンス2006 開催報告／竹野内勝次

[PE] 技術士6・2007

- ・いまこそ『技術』総点検／段本幸男
- ・日本大学理工学部土木工学科における技術者倫理教育／田中和博・野村卓史
- ・ITを利活用した漁業地域の振興と水産基盤整備／長野 章
- ・減災に向けた地域防災力の向上／山口 豊
- ・ガソリンと軽油のサルファフリー化技術／田中祐一
- ・「日本のこれからのもりづくり」（企業内技術士シンポジウム2006）／上出 厚・藤井裕司
- ・本会の新たなシンボルマークの制定について

編集後記

（社）日本技術士会も新体制がスタートしました。新理事選挙において九州支部からは永逸生理事が二期目の理事に就任され、九州支部では光岡毅支部長が再選されました。本会には数多くの課題が山積しています。お二人のリーダーシップと会員皆様の積極的な会への参画がうまくかみ合って、会の発展があるものと思います。この「技術士だより」がその一翼を担えるように企画内容の充実を図っていきたいと考えています。

今号では、従来のB5版サイズからA4版サイズに変更し、発行欄から「九州技術士センター」の記載がなくなりました。また、これまで、「文字が小さくて読みにくい」という声をいただいておりますので、文字を大きくし読みやすくいたしました。

今後、全体の企画内容・レイアウト等についても改訂を予定しています。皆様からのご提案がございましたら、支部広報委員会宛にメール等でご連絡いただきますようお願いいたします。（棚町）

発行：（株）日本技術士会九州支部

〒812-0012 福岡市博多区博多駅中央街7-1
（シック博多駅前ビル204）

九州支部： ☎(092)432-4441

FAX(092)432-4443

E-mail: pekyushu@nifty.com

九州支部ホームページ URL：

<http://homepage2.nifty.com/pekyushu/>

センター： ☎ / FAX(092)432-4443

印刷：（株）川島弘文社